

「歴史的な建築物がある集落や町並み (重要伝統的建造物群保存地区)」での観光に関する調査

- 関心のある集落・町並みは「城下町・商家町」、「寺町・門前町」、「近代の洋館」
・若い人ほど関心は低くなり、20 代男女は 4 割が「訪問したくない、わからない」
- 直近で訪れた「重要伝統的建造物群保存地区」の滞在時間は 2 時間未満 36.7%
・直近の宿泊経験は 12.6%。滞在時間を延ばすには、狭い域内でどう過ごしてもらうかが課題
- 「**地区内での昼食**」が、再訪や滞在時間など消費拡大への重要要素
- 訪問経験のある **20 代男性**は「保存への協力」や「中長期滞在」意向が高い
- 保存地区の管理・運営者の課題は「空き家の活用」と「交通アクセス」の改善

株式会社 JTB 総合研究所（東京都港区 代表取締役社長 野澤肇）は、「歴史的な建築物がある町並みに関する調査」を実施しました。当社は、生活者のライフスタイルや価値観が消費行動や旅行に与える影響に関する調査分析を継続的に行っています。

全国各地には城下町、宿場町、門前町のような歴史的な建築物のある集落や町並みが多く保存されています。そのうち現在 98 市町村 118 地区が国により重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。これらには川崎市や京都市（産寧坂、祇園新橋、嵯峨鳥居本、上賀茂）、白川村（白川郷）などのようにいつも多くの観光客でにぎわっている地区もあれば、生活の場として静かなたたずまいを残す地区もあります。最近は町並みを保存するだけでなく、もっと積極的に活用して交流人口を増やしていこうという動きが多く見られるようになってきました。国も「明日の日本を支える観光ビジョン」で、“文化財の観光資源としての開花”を掲げ、観光資源の魅力強化と地方創生に向けた支援を始めています。

本調査では、「歴史的な建築物がある集落や町並み」について旅行者の動きや訪問意向などを把握するため、重要伝統的建造物群保存地区への旅行者アンケートおよび地区の管理運営に関わる組織・団体へのアンケートから、今後の可能性を探ります。なお、訪問経験などについての調査対象地区は、「重要伝統的建造物群保存地区」の種類ごとに 29 の地区をランダムに選択しましたが、今後の可能性という観点から大都市および既に多くの観光客が訪れる有名観光地は対象外としました。

【調査概要】

1. 旅行者へのインターネット・アンケート調査

(実施期間) 2019年5月10日～5月17日

(調査対象)

スクリーニング調査：全国に居住する20～79歳の男女 10,000名

本調査：全国に居住する20～79歳の男女、過去1年間に1回以上宿泊を伴う旅行をしたことがある。

「歴史的な建築物がある町並み」を訪れることに全く興味がない人を除く

対象とする29地域(下表)のいずれかを訪れたことがある 1,030名

2. 管理・運営者へのインターネット・アンケート調査

(実施期間) 2019年5月21日～5月28日

(調査対象) 全国の重要伝統的建造物群保存地区の管理・運営に関わる組織や団体のうち、回答を得た23件

旅行者へのインターネット・アンケート調査で対象とした地域：

| | |
|----|-------------------------------------|
| 1 | 秋田 仙北市 角館(かくのだて)(武家町) |
| 2 | 福島 下郷町 大内宿(おうちじゅく)(宿場町) |
| 3 | 茨城 桜川市 真壁(まかべ)(在郷町) |
| 4 | 埼玉 川越市 川越(かわごえ)(商家町) |
| 5 | 新潟 佐渡市 宿根木(しゅくねぎ)(港町) |
| 6 | 富山 高岡市 金屋町(かなやまち)(鑄物師町) |
| 7 | 長野 塩尻市 奈良井(ならい)(宿場町) |
| 8 | 長野 長野市 戸隠(とがくし)(宿坊群・門前町) |
| 9 | 長野 南木曾町 妻籠宿(つまごじゅく)(宿場町) |
| 10 | 岐阜 郡上市 郡上八幡北町(ぐじょうはちまんきたまち)(城下町) |
| 11 | 岐阜 白川村 白川郷 萩町(しらかわごう おぎまち)(山村集落) |
| 12 | 岐阜 高山市 三町(さんまち)(商家町) |
| 13 | 岐阜 美濃市 美濃町(みのまち)(商家町) |
| 14 | 三重 亀山市 関宿(せきじゅく)(宿場町) |
| 15 | 滋賀 近江八幡市 八幡(はちまん)(商家町) |
| 16 | 滋賀 彦根市 河原町芹町(かわらまちせりまち)(商屋町) |
| 17 | 京都 伊根町 伊根浦(いねうら)(漁村) |
| 18 | 兵庫 丹波篠山市 篠山(ささやま)(城下町) |
| 19 | 奈良 橿原市 今井町(いまいちよう)(寺内町・在郷町) |
| 20 | 島根 大田市 大森銀山(おおもりぎんざん)(鉱山町) |
| 21 | 島根 大田市 温泉津(ゆのつ)(港町・温泉町) |
| 22 | 島根 津和野町 津和野(つわの)(武家町・商家町) |
| 23 | 広島 福山市 鞆の浦(ともうら)(港町) |
| 24 | 山口 萩市 堀内、平安古(ほりうち、ひやこ)(武家町) |
| 25 | 徳島 三好市 東祖谷山村落合(ひがしいややまそんおちあい)(山村集落) |
| 26 | 福岡 朝倉市 秋月(あきづき)(城下町) |
| 27 | 佐賀 嬉野市 塩田津(しおたづ)(商屋町) |
| 28 | 佐賀 鹿島市 浜中町八本木宿(はまなかまちはちほんぎしゅく)(醸造町) |
| 29 | 宮崎 日向市 美々津(みみつ)(港町) |

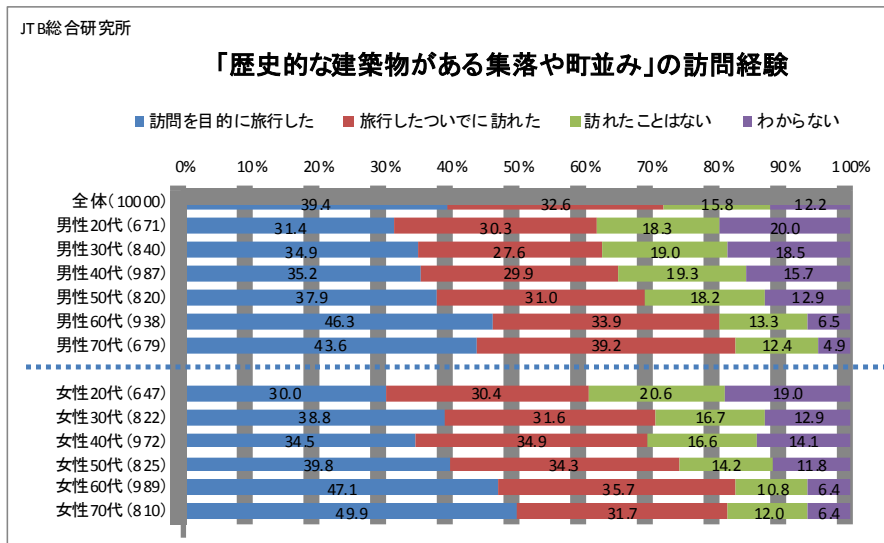
1. 「歴史的な建築物がある集落や町並み」の訪問経験は全体の72.0%

関心が高いのは「城下町・商家町」、「寺町・門前町」。76.8%が関心を持つ。若くなるほど関心が薄まる

最初に、日本全国に居住する20～79歳の男女（調査パネル10,000名）に対し、「歴史的な建築物がある集落や町並み（重要伝統的建造物群保存地区に限らない）」を訪れたことがあるかどうかを聞きました。「訪問を目的に旅行した」は39.4%、「旅行したついでに訪れた」は32.6%、合計72.0%となりました。性年齢別にみると、男女ともに年齢が若いほど、「訪れたことはない」、「わからない」の比率が高まる傾向がみられました。関心のある「町並み」の種類としては、「城下町・商家町(51.9%)」、「寺町・門前町(44.2%)」、「近代洋風建築物群(35.8%)」の順でした。性年齢別にみると、概ね、年齢が高い方が関心の高い傾向となりましたが、「近代洋風建築物群」については女性の方が男性より関心が高く、「港町・漁村」は他と比べて性年齢別で大きな差は見られませんでした。

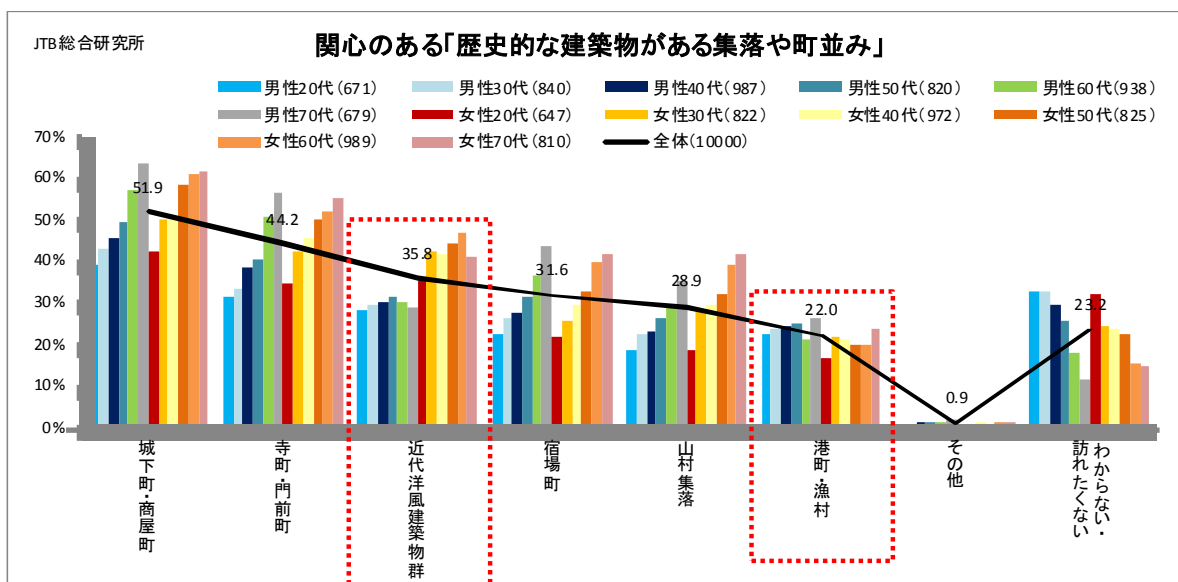
(図1) 訪問経験(性年齢別)

(単一回答)



(図2) 関心がある「町並み」の種類(性年齢別)

(複数回答)



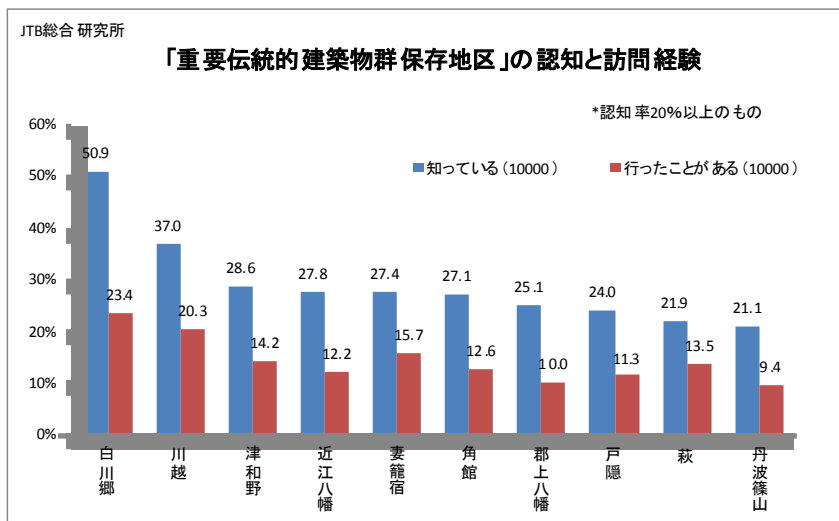
2. 調査対象とした「重要伝統的建造物群保存地区」の認知度と訪問経験は「白川郷」、「川越」が上位

直近の訪問時の滞在時間は2時間未満が36.7%。地区内での宿泊は12.6%

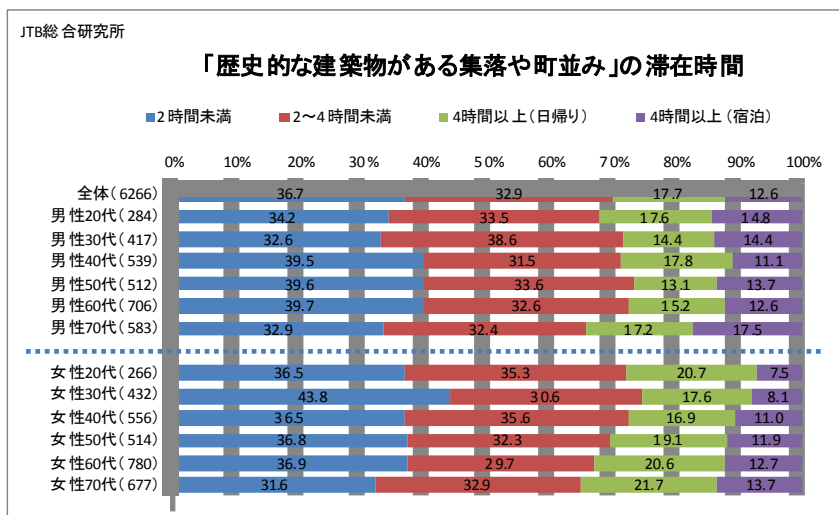
調査概要で示した29の「重要伝統的建造物群保存地区」について、それぞれ認知度と訪問経験をみると、世界遺産の「白川郷(認知度50.9% 訪問率23.4%)」や、首都圏から近く、テレビ番組でよく見かける「川越(認知度37.0%、訪問率23.0%)」

が上位となりました。直近で訪問した地区の滞在時間は、2 時間未満が 36.7%、2~4 時間未満が 32.9%で、地区内での宿泊は 12.6%となりました(図 3、4)。歴史的な建築物がある集落やまちなみは、その多くが広いエリアではないため、域内で時間をかけて何ができるかが課題となりそうです。

(図 3)の認知と訪問経験(認知度 20%以上の地区) (複数回答)



(図 4)直近で訪問した地区の滞在時間 (単一回答)



【直近の「重要伝統的建造物群保存地区」を訪れた時の旅行行動について】

3. 67.9%が日帰りで訪問。13.6%が「近隣の観光地や温泉地」と、地区外に宿泊している

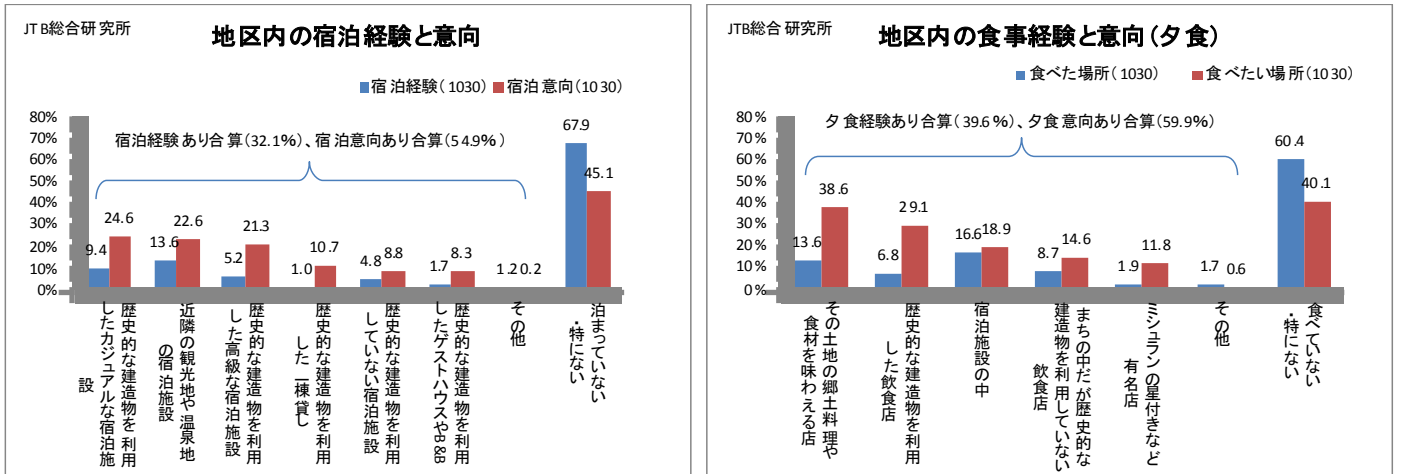
今後宿泊してみたいのは「歴史的な建造物を利用したカジュアルな宿泊施設(24.6%)」

ここからは、対象とした 29 地区のいずれかへの訪問経験があると回答した人(1030 名)が、直近で訪れた「重要伝統的建造物群保存地区」についてみていきます。

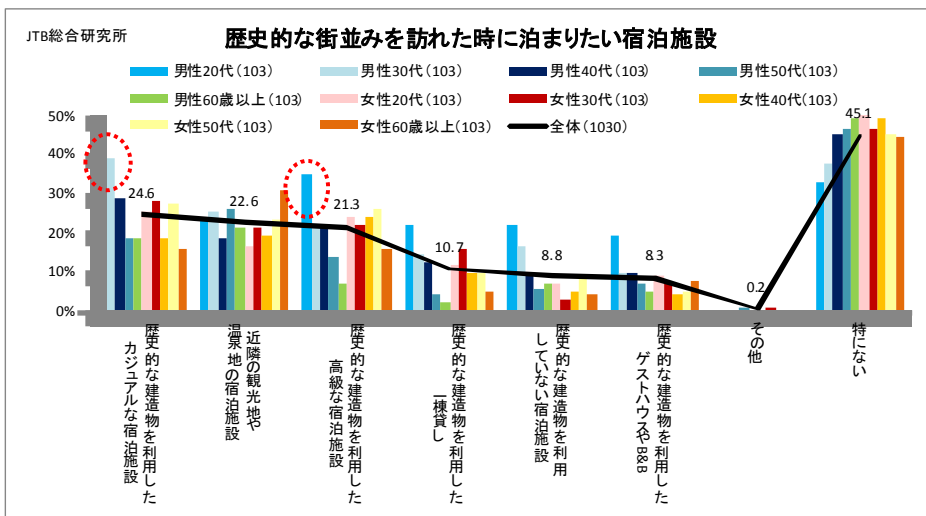
宿泊を伴う旅行で訪れた人は、全体の 32.1%で、13.6%は「近隣の観光地や温泉地」へ宿泊したと回答しました。地区内で最も多かったのは、「歴史的な建造物を利用したカジュアルな宿泊施設(9.4%)」でした。今後の宿泊意向については、「歴史的な建造物を利用したカジュアルな宿泊施設(24.6%)」が最も高くなりましたが、性別年齢別にみると、20 代男性は「歴史的な建造物を利用した高級な宿泊施設」への宿泊意向が比較的高くなりました。

訪問の際の同行者は「配偶者・パートナー」が最も多く、55.6%でした。男女別では、女性は「友人」や「親」、男性は「ひとり」の割合も比較的高くなりました(図 5~8)。

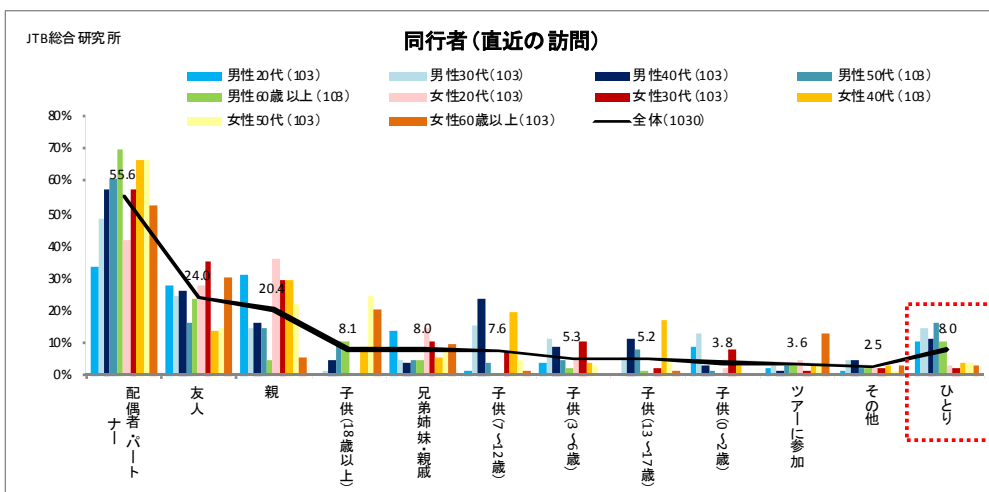
(図 5) 直近の訪問の際の宿泊経験と今後の意向(複数回答) (図 6) 訪問の際の食事経験と今後の意向 (複数回答)



(図 7) 今後訪れた時に泊まりたい宿泊施設(性年齢別) (複数回答)



(図 8) 直近の訪問時の同行者(性年齢別) (複数回答)

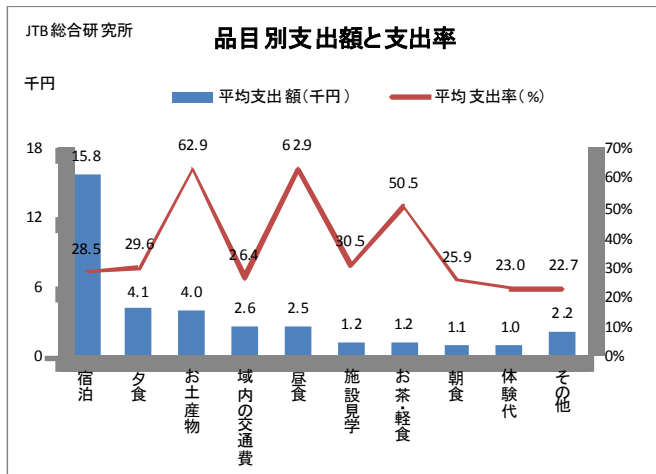


4. 地区内の消費が多いのは、「土産物(62.9%)」、「昼食(62.9%)」、「お茶・軽食(50.5%)」

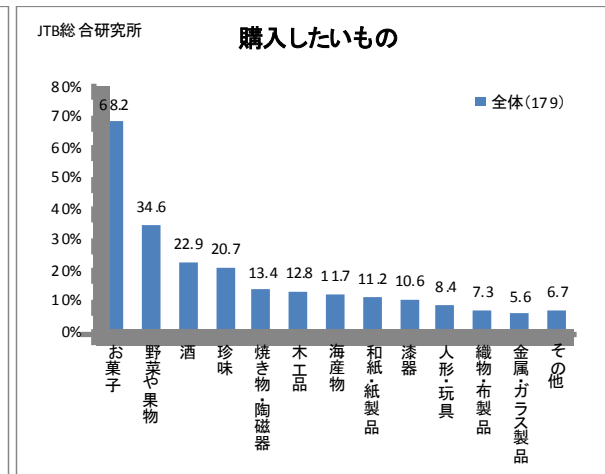
平均支出額が高いのは「宿泊(15.8千円)」、「夕食(4.1千円)」

次に地区内での消費行動についてみてみます。支出率が高い品目は、「土産物(62.9%)」、「昼食(62.9%)」、「お茶・軽食(50.5%)」の順でした。平均支出額が多いのは、「宿泊(15,800円)」、「夕食(4,100円)」、「お土産物(4,000円)」で、土産物として購入したいものは「お菓子」、「野菜や果物」、「酒」といった飲食品が上位となりました。同行者別で「お金を使ったもの」をみると、「12歳以下の子供連れ」は「土産物」や「昼食」、「お茶・軽食」などへ消費していることがわかりました(図 9~11)。

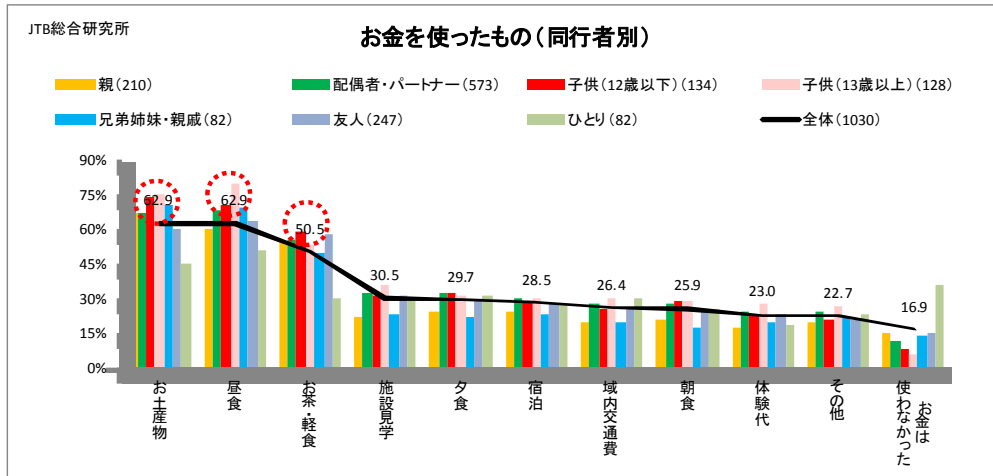
(図 9) 地区内での消費経験(平均支出額と支出率)



(図 10) 土産物として購入したいもの (複数回答)



(図 11) お金を使ったもの(同行者別)



5. 訪問のきっかけは、

「同行者に連れられていった(17.8%)」、「家族や友人から話を聞いた(15.6%)」、「旅行先の近くにあった(12.2%)」

訪問者が実際に訪れた時に感じたことは「のんびり・リラックスできた(61.4%)」、「懐かしい感じがした(37.3%)」

訪問したきっかけは、「同行者に連れられていった(17.8%)」や「家族や友人から話を聞いた(15.6%)」、「旅行先の近くにあった(12.2%)」など、自ら積極的に探して行くというよりは、何らかのきっかけに付随して訪れる“受動的”なものであるようです。

訪問の際に“期待したこと”としては、「風やにおい、まちなみなど、その場所の雰囲気を感じたい(63.4%)」など、その場に実際に身を置くことで体感したいという気持ちが感じられました。同行者別に“期待したこと”をみると、「12歳以下の子供連れ」は、「発信していいね、などのリアクションをもらいたい」や「地元の人と交流し故郷に帰った気持ちになりたい」も高い傾向でした。また、「歴史や文化を学び、知的好奇心を満たしたい」は、「ひとり」と「13歳以上の子供連れ」でやや高くなりました。

訪問者が実際に訪れた時に感じたことは、全体では「のんびり・リラックスできた」が61.4%と最も高く、「懐かしい感じがした」の37.3%が続きました。

また、地区別に「感じたこと」の特徴を見てみると(コレスポンデンス分析)、「リラックス」⇔「リフレッシュ」、「日常」⇔「非日常」の2つの軸で地区が分かれ、日常の延長のような雰囲気の中で、のんびりした気持ちを感じられる場所、気軽にリラックスして楽しめる場所、日常にはない、高揚する楽しさを味わえる場所、もしくは、心が洗われる感覚を味わえる場所、といった特徴がみられました(図 14、15)。